

# 輸入麦の政府売渡価格について

(価格公表添付資料)

平成 2 5 年 2 月

**農林水産省**

# 目次

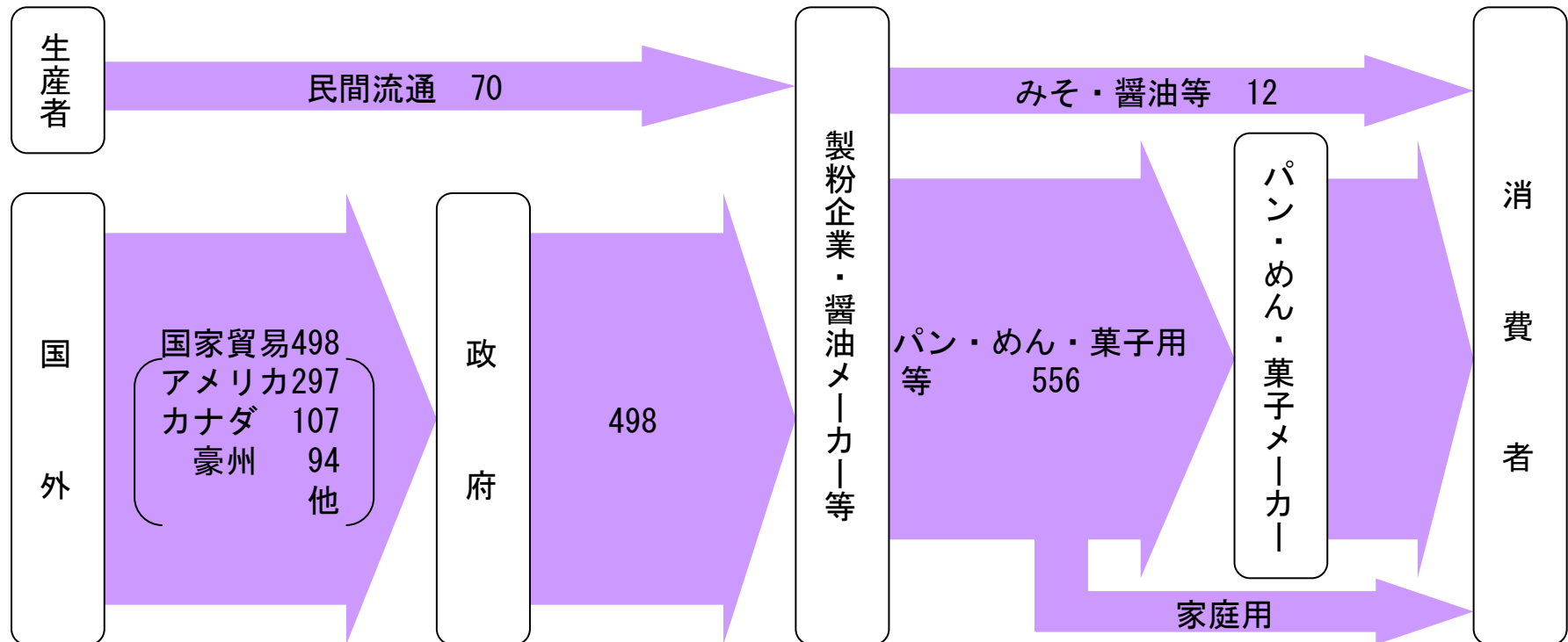
・ 小麦の流通の概要	1
・ 小麦の種類と用途	2
・ 現行の輸入麦の売渡制度	3
・ 穀物の国際価格（シカゴ相場）の推移（平成18年4月～25年2月）	4
・ 2012/13年産小麦の作柄と日本向け輸出価格への影響	5
・ 海上運賃の動向	6
・ 為替の動向	7
・ 輸入小麦の政府売渡価格の推移	8
・ （参考）物価・家計への影響	9
・ （参考）輸入麦及び麦製品の安定供給の確保のための取組	10

# 小麦の流通の概要

- 麦は需要量の約9割を外国産麦の輸入で賄っている。国内産麦は民間流通により取引されており、外国産麦は政府が国家貿易により一元的に輸入し、需要者に売り渡している。
- また、米とは異なり、最終的にパンやめんとして消費するために、流通過程において各種の加工工程を経ている。
- 小麦は、主に製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・めん・菓子などを製造している。

## 小麦の流通のイメージ（食糧用）

（単位：万トン）







（注）流通量は、過去5年（H19～H23年度）の平均数量である。

## 小麦の種類と用途

- 原料として使用される小麦の種類は、小麦粉の種類・用途に応じて異なる。
- 小麦粉の種類はたんぱく質の量によって強力粉（パン用）、準強力粉（中華めん）、中力粉（うどん用）、薄力粉（菓子用）に分類される。

小麦の種類	カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング（1CW）	アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング（DNS）	アメリカ産ハード・レッド・ウィンター（HRW）	オーストラリア産スタンダード・ホワイト（ASW）	アメリカ産ウェスタン・ホワイト（WW）
輸入数量	85万トン	139万トン	82万トン	81万トン	76万トン

小麦粉の種類	強力粉	準強力粉	中力粉	薄力粉
主な用途	食パン 	中華めん ギョウザの皮 	うどん 即席めん ビスケット 和菓子 	カステラ ケーキ 和菓子 天ぷら粉 ビスケット 
たんぱく質の含有量	11.5～13.0%	10.5～12.5%	7.5～10.5%	6.5～9.0%

（注）輸入数量は、過去5年（H19～H23年度）の平均数量である。

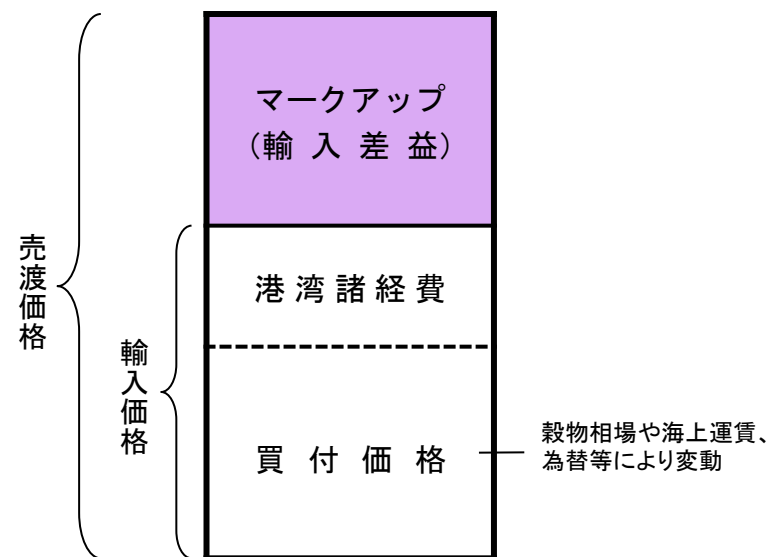
## 現行の輸入麦の売渡制度

- 平成19年4月からの輸入麦の政府売渡価格は、輸入価格（過去の一定期間における輸入価格の平均値）に、マークアップ（政府管理経費及び国内産麦の生産振興対策に充当）を上乗せした価格。
- 国際相場の変動の影響を緩和するため、価格改定は当面年2回とするとともに、過去6か月間の平均買付価格をベースに算定。

### ○ 政府売渡価格改定ルール

項目	基本的なルール
年間価格改定回数	原則は年3回、当面年2回（2月、8月に決定・公表）
買付価格算定時期	直近6か月間 （ 今回の改定に当たっては、平成24年9月から平成25年2月までの政府輸入価格を基に算定。 ）

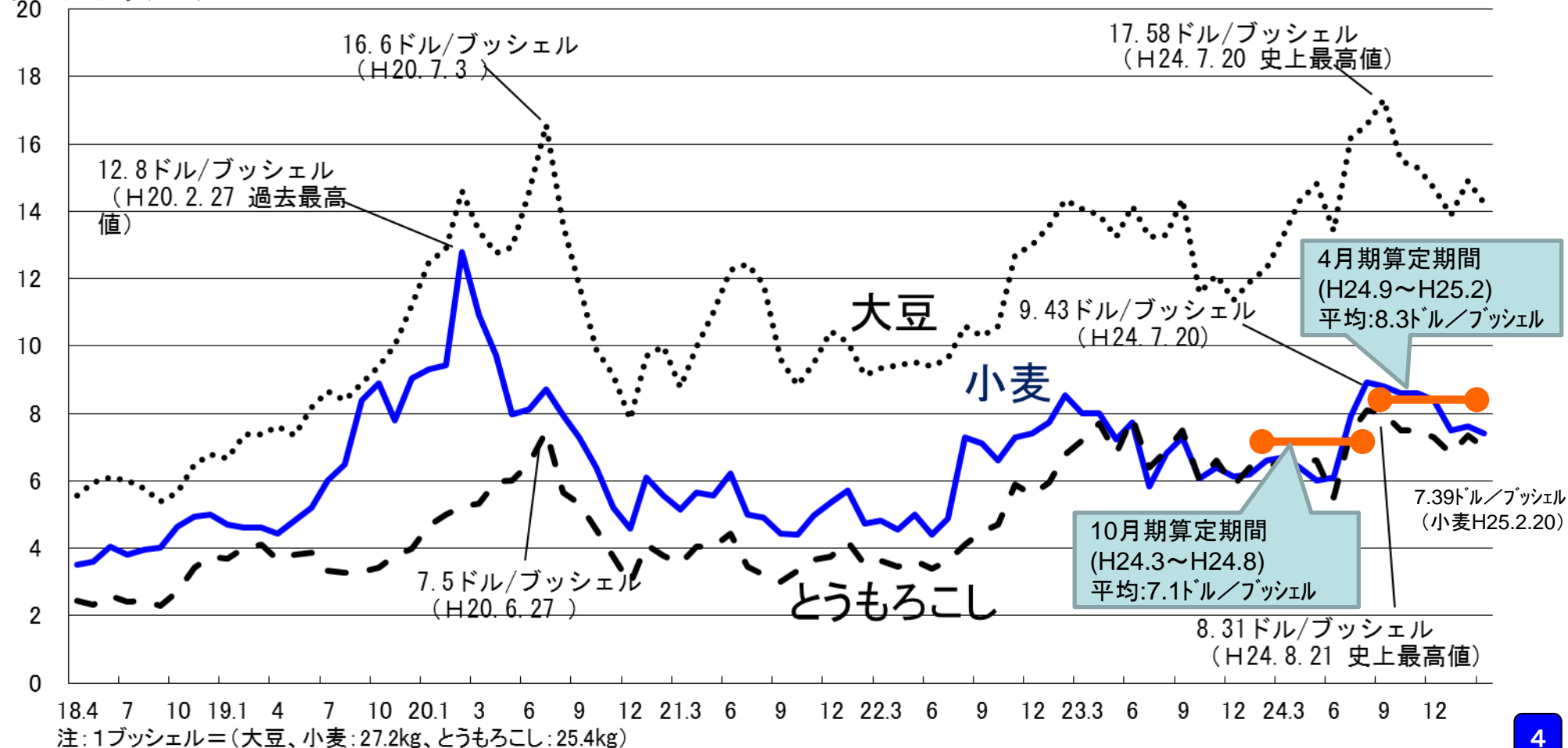
### ○ 政府売渡価格の構成



# 穀物の国際価格(シカゴ相場)の推移(平成18年4月～25年2月)

○ シカゴ商品取引所における小麦相場は、昨年6月以降、米国の高温・乾燥気候による作柄悪化懸念を背景に上昇した大豆、とうもろこしに連動し、7月に4年ぶりの高値を記録。その後11月頃まで高水準で推移。

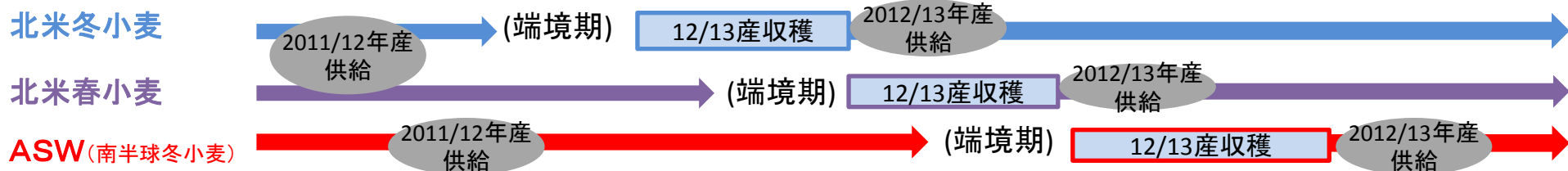
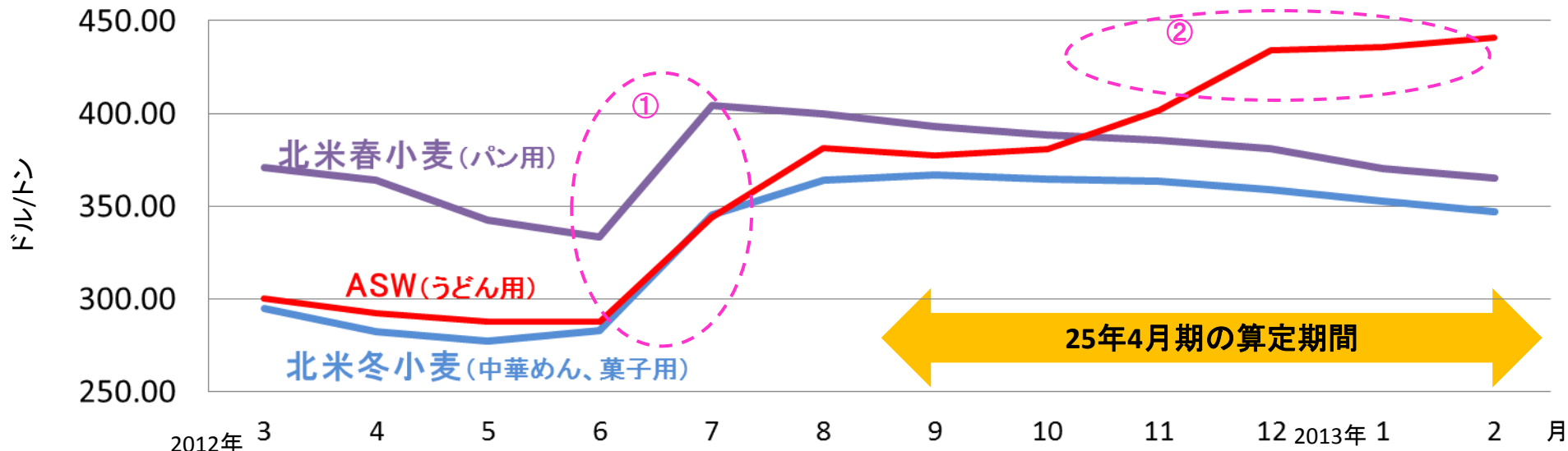
ドル/ブッシェル



# 2012/13年産小麦の作柄と日本向け輸出価格への影響

- 2012/13年産は北米冬小麦・春小麦とも豊作であったものの、トウモロコシの作柄悪化懸念による相場の上昇を受け小麦の日本向け輸出価格は上昇（下図①）。
- 豪州では西豪州の乾燥気候により生産量が減少したことから、ASWの日本向け輸出価格が上昇（下図②）。

## ○ 小麦の日本向け輸出価格の推移



## ○ 小麦の生産量

	2011/12年産	12/13年産
米国	54.4百万トン	61.8百万トン (+14%)
カナダ	25.3百万トン	27.2百万トン (+ 8%)
豪州	29.9百万トン	22.0百万トン (▲26%)

(参考) 米国トウモロコシ

12/13産収穫

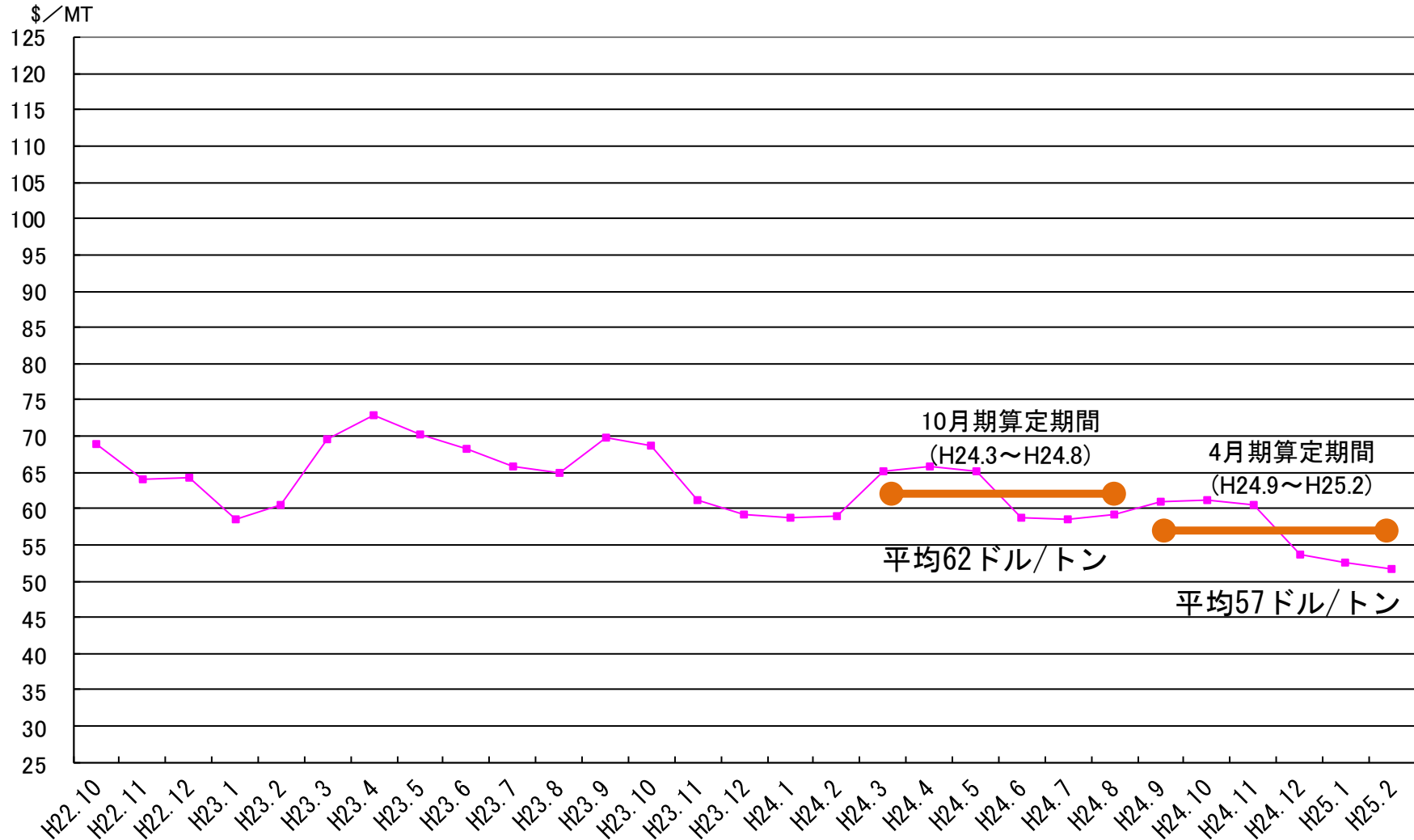
(参考) 米国トウモロコシ生産量	
2011/12年産	12/13年産
314.0百万トン	273.8百万トン (▲13%)

出典: 米国農務省 World Agricultural Supply and Demand Estimates (Feb. 2013)

# 海上運賃の動向

○ 海上運賃は、昨年10月以降、中国の景気が減速したため、中国向け非鉄金属等の輸入貨物の減少に伴う船舶需要の緩和等により、弱含み傾向となっている。

## ○ 海上運賃の推移





# 為替の動向

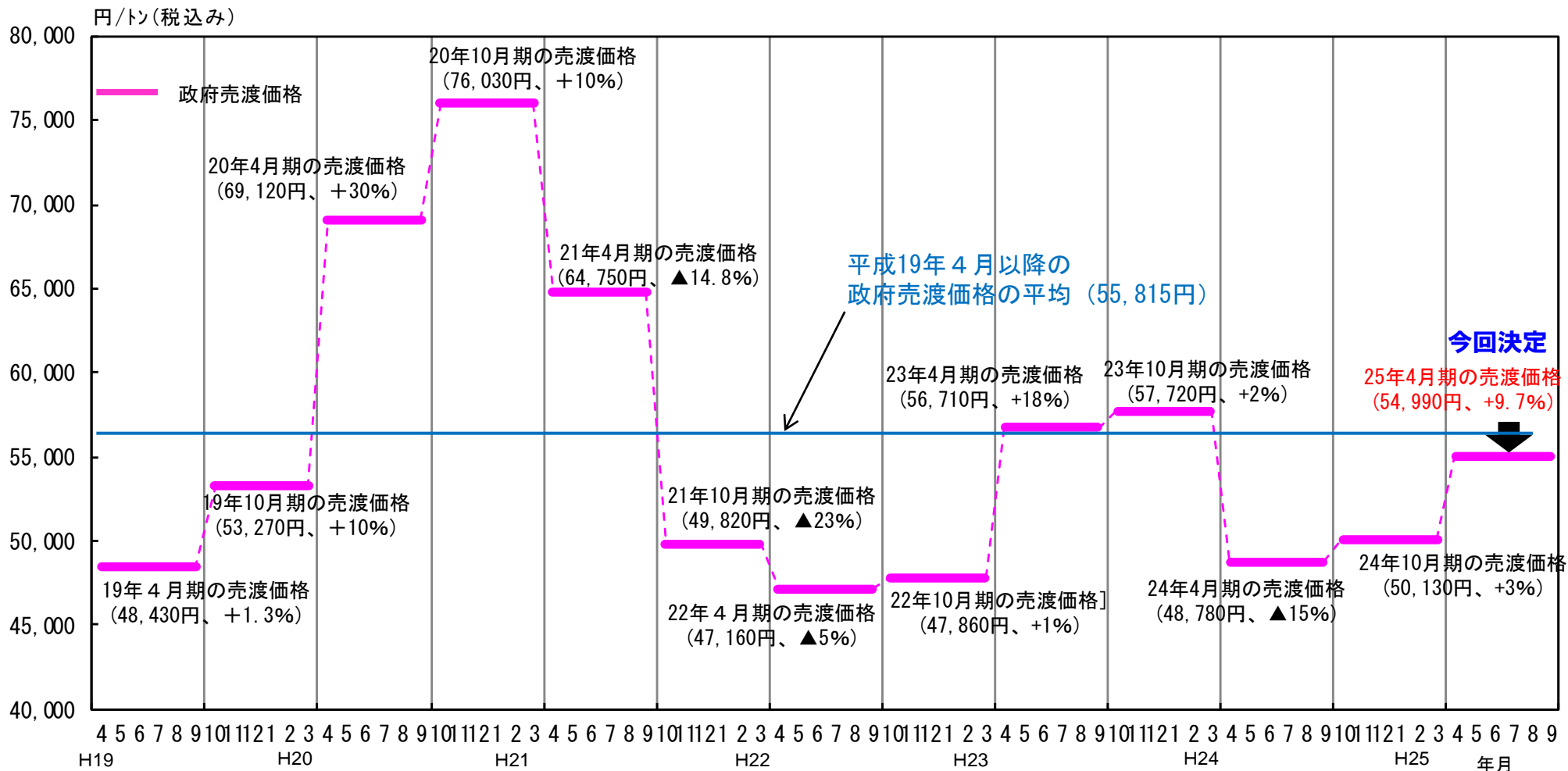
○ 為替は、平成21年以降円高傾向が続いていたが、昨年11月下旬以降、円安基調に転じている状況。

## ○ 為替の推移



# 輸入小麦の政府売渡価格の推移

- 輸入小麦の政府売渡価格は、穀物の国際相場や、海上運賃、為替等の動向が反映された輸入価格に伴い、変動。
- 平成25年4月期（平成25年4月～平成25年9月）の輸入小麦の政府売渡価格は、輸入小麦の政府売渡価格の改定ルールに基づき、5銘柄平均で54,990円/トン（対前期比で+9.7%の引上げ）と決定。



## (参考)物価・家計への影響

○ パンや麺などの小麦粉関連製品の小売価格に占める割合はそれほど大きくなく、今回の政府売渡価格の引上げが消費生活に与える影響は極めて限定的。

○ 25年4月期の政府売渡価格の改定が消費者物価指数に与える影響（試算）

+0.008% 程度

※ 今回の政府売渡価格の引上げ分が全て小売価格に反映された場合を機械的に試算。

### ○ 小麦粉製品の影響額試算

	(※1 小売価格)	(※2 改定による影響額(試算))
うどん(外食)	599円/1杯	→ 0.9円/1杯
食パン(小売)	165円/1斤	→ 0.9円/1斤
小麦粉(家庭用小袋)	225円/1kg	→ 8.5円/1kg

※1: 小売価格は、総務省「小売物価統調査」(東京都区部)による。

※2: 小麦粉製品ごとの原料小麦割合、原料小麦の価格改定率により機械的に試算。

○ 政府売渡価格の改定と製粉企業的小麦粉価格の改定時期

【製粉企業的小麦粉価格改定時期】

各事業者の原材料の在庫状況等により異なるが、過去の例からすると、約3か月後の本年6月下旬以降。

(参考)直近の改定事例(平成24年10月期)

平成24年10月1日より適用

→平成24年12月20日に小麦粉価格の改定(約3ヵ月後)

(参考試算)

小麦関連製品の売渡価格に占める原料小麦代金の割合

① 中華そば(外食)	1%
② 食パン	7%
③ 即席中華めん	2%
④ ゆでうどん	8%
⑤ 小麦粉(家庭用小袋)	27%

注1: 数値は、東京都区部の小売価格(25年1月、総務省「小売物価統計」)に占める割合(試算値)。

注2: 消費者物価指数における消費支出額割合の多いものから記載。

## (参考)輸入麦及び麦製品の安定供給の確保のための取組

- 農林水産省としては、消費者等に対し、輸入麦の政府売渡価格改定の背景等に関する正確な情報提供に努めるとともに、農林水産省内の専門の相談窓口を活用し、各種相談を受け付ける。
- また、農林水産省の出先機関が、食パンや小麦粉等小麦製品の店頭価格の動向把握に努める。

### ○ 相談窓口の設置

輸入麦の安定供給に資するよう、農林水産省内に相談窓口を設置。

#### <設置場所>

農林水産省 生産局 農産部 貿易業務課内

#### <設置日>

平成25年 2月

#### <相談内容>

- ① 国際相場の動向や価格改定理由の説明、関連資料の提供
- ② 小麦関連製品に係る小売価格に関する相談
- ③ 原料小麦の安定供給の確保に関する相談 等

### ○ 小麦製品の店頭価格把握

農林水産省の出先機関が、小麦製品の店頭価格の動向把握に努める。

#### <主体>

農林水産省職員

#### <対象店舗>

全国470店舗

#### <把握内容>

大手メーカーが全国規模で販売展開する銘柄の食パン、即席カップめん、ゆでうどん及び家庭用小麦粉の店頭価格

相談  
窓口

[mugi-soudan@nm.maff.go.jp](mailto:mugi-soudan@nm.maff.go.jp)

